

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21年 1月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	0770403160		
法人名	社会福祉法人 愛誠会		
事業所名	グループホーム あさがお		
所在地	〒974-8261福島県いわき市植田町本町一丁目11番地の4 (電話) 0246-62-7881		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆビル302号室		
訪問調査日	平成20年12月3日	評価確定日	平成21年1月15日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 29日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	14人	常勤	13人, 非常勤 1人, 常勤換算 13.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000円	その他の経費(月額)	9,000円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250円	昼食	400円
	夕食	450円	おやつ	0円
	または1日当たり		1,100円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	17名	男性	3名	女性	14名
要介護1	3名	要介護2	5名		
要介護3	5名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	名		
年齢	平均 75.6歳	最低	72歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ゆうクリニック	根岸歯科医院
---------	---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設当初より職員の異動は少なく、開設時からの利用者も多く職員とは馴染みの関係が出来ており、なごやかな雰囲気のある事業所である。今年8月に法人が小規模多機能型居宅介護事業所を開設したのに伴い、若干職員の異動があったがほとんど混乱もなくスムーズに引き継がれ、職員と利用者の日ごろの良好な関係がうかがえる。アニマルセラピーの一環として犬や金魚等を飼っており、利用者が世話をしている。また、音楽療法としては共有空間にあるグランドピアノで家族やボランティアによる演奏会を開いたり、職員や利用者が演奏し、一緒に歌い皆で生活を楽しんでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	改善事項については、重度化や終末期に向けた指針の作成は検討中であり、運営に関する家族の意見の反映については、家族会の結成を準備中である。その他についても全職員で話し合い改善に向けて取り組み、概ね改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、各ユニットごとにそれぞれの職員が日ごろのケアを振り返りながら取り組み、ユニットリーダーが集約しそれを全職員に伝達し、サービスの向上に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)
	運営推進会議は定期的に2ヶ月に1度開催しており、町内会長や地域の代表者、ボランティア協議会会員、地域包括支援センター職員、利用者家族、利用者で構成され、委員からは地域への情報発信のため地域向けの広報誌の作成や防犯対策等活発な意見や提案があり、事業所の運営に反映させている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議の開催により家族から意見の把握が容易になってきている。また家族の訪問が多く気軽に話してもらえるよう雰囲気作りにも努めており、家族の意見や要望を運営に反映させる体制となっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、地域に向けた広報誌で「よろず介護相談」や行事等、事業所の情報を発信している。近隣の児童館の子供たちの訪問、看護学生の実習、ボランティアの受け入れ等を行っており、また、地域の行事や公民館行事にも積極的に参加し交流している。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスを踏まえた理念を作り上げ、実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者はミーティング等あらゆる機会に職員に理念に基づいた支援が来ているかを確認し、理念の共有に努めている。また、理念を事業所内に掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、運営推進委員の提案により、地域向けのあさがお便りを作成し、回覧版で事業所の情報を発信している。また、公民館主催の文化祭、花火大会、夏祭り、歩行者天国等に積極的に参加し交流している。ボランティアや看護学生の実習等を受け入れており、向かいにある児童館の子供たちとも交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各ユニット毎に、職員全員で日常のサービスを振り返りながら取り組んでおり、外部評価の結果は運営推進会議や職員会議に報告し、改善に向けて話し合い質の向上に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催されており、回を重ねるごとに委員の理解が得られ、活発な意見や提案が出されている。運営推進会議の開催により地域との交流も増えてきている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月請求書送付の際に利用者一人ひとりの近況を担当者から報告している。また、あさがお便りや医療機関への受診状況、金銭出納帳のコピー、領収書を送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は面会や行事への参加が多く、常に家族と交流しており気軽に意見を言ってもらえるよう努めている。また、運営推進会議で家族が積極的に意見を述べているのが記録からもうかがえる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年8月に法人内の異動があったが、職員から利用者へ十分説明し、混乱なく引き継ぎが行われた。また、家族等には職員の異動を「あさがお便り」で報告し、また、事業所内に職員の顔写真を掲示し周知している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には職員の希望や経験に応じて参加させており、研修終了後は報告会を開催し情報の共有をしている。全職員が資格取得に意欲的に取り組んでいる。また、資格取得者には法人から祝い金があり、任用されると待遇に反映させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県認知症グループホーム連絡協議会の研修会等に参加し交流している。また、いわき地区の管理者研修会には管理者だけでなくケアマネジャー等も参加し交流している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者はできること、したいこと(掃除、食事の準備、洗濯物たたみ、畑仕事、裁縫等)を職員と共に行っている。行事食や野菜作り等を利用者から教えてもらうことも多く、職員は尊敬の念を持って接している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中から利用者の思いを汲み取り、また、家族からの情報を得ながら意向を把握し、本人本位の生活ができるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を取り入れた介護計画となっている。毎月家族の希望を踏まえカンファレンスを行い、職員の気づき等を話し合い、具体的な計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画の見直しをしており、利用者の状態に変化がある場合には、家族や関係者と話し合い随時計画の変更を行い、現状に即した介護計画となっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や利用者の希望するかかりつけ医の受診を支援している。また、協力医療機関からは週2回の往診があり、通院には職員が同行し受診後は家族に報告し情報の共有をされており、利用者が適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態に応じて本人、家族、医療機関と随時話し合っているが、重度化や終末期に対する事業所としての具体的な対応指針を定めていない。また、利用者や家族の終末期に対する意向の確認がなされていない。	○	事業所としての重度化や終末期の指針を定め、急変時には統一した支援が出来るよう日ごろから職員間で話し合い、方針の共有をされることが望ましい。また、「意思確認書」等により利用者や家族の意向を把握され、同意を得ることが大切である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は全職員が日々の支援の中で利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。また、個人情報の取り扱いについても全職員が十分理解しており、秘密保持に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の自己決定を尊重しており、利用者の体調や思いに配慮しながら自由に過ごしてもらえるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	管理者は日々の支援の中でも食事に重点をおいており、全職員が美味しいものを提供することに努めている。冷凍食品は使用せず、旬の食材中心の献立は利用者から好評である。利用者と職員が一緒に調理し、ともに食卓を囲み食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制となっており、時間も利用者の希望に沿って支援している。利用者のその日の気分や状態に応じて利用者本位の対応をしている。菖蒲湯やゆず湯等季節にあった楽しみも提供している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	犬や金魚の世話、料理、掃除、洗濯物の取り込みや整理等利用者ができることを自然に行っており、一人ひとりの生活能力が発揮できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	買物や散歩等は利用者の希望により支援している。また、お花見やスパリゾートハワイアンズ、歩行者天国、白水阿弥陀堂見学等日帰りドライブ等を数多く企画し、実施している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者はじめ全職員が鍵をかけることの弊害を十分理解しているが、事業所が交通量の多い道路に面しており、全家族から同意を得て自動ロックを利用している。利用者の外出行動を全職員が見守りて対応し行動の制限をしない支援をしている。また、運営推進会議ではセンサー等の設置について検討されている。		利用者の安全を確保しながら日中は錠をかけないですむ工夫が望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練はあらゆる場面を想定し、年に4回2ユニット合同で実施しており、各ユニットごとには年3回実施しているが、地域との協力体制ができていない。災害時の食料品等は備蓄されている。	○	今後は災害時に地域からの協力体制が確保できるよう働きかけをしていくことが大切である。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のバランスに配慮しており、利用者一人ひとりの食事の摂取量や水分摂取状況をチェック表に記入し、利用者の健康管理に役立てている。利用者の状態によっては補食で対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットごとに長椅子やソファが機能的に配置され、畳敷きのスペースもあり、利用者が思い思いの場所で自由にくつろいでいる。天候や時間により照明や温度を調整し居心地よく過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は和室と洋室があり、利用者が使い慣れたテレビや炬燵等を持ち込み、それぞれ個性的な居室となっている。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム あさがお

記入担当者名 本田 訓子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。